

景 観 計 画 書  
(景観育成地区[谷中地域]における建築物の建築等)

当該行為における景観形成に関する考え方	
記載欄	
(1) 配置	
<input type="checkbox"/>	敷地内やその周辺に歴史的・文化的な資源や残すべき自然などがある場合は、これらを活かした配置となるよう配慮する。 記載欄
<input type="checkbox"/>	道路や通路、路地沿いにゆとりの演出を図るとともに、隣接する建築物の壁面の位置などに配慮する。 記載欄
<input type="checkbox"/>	道路等に顔を向けた配置を行う。 記載欄
<input type="checkbox"/>	言問通り沿いの建物は、道路沿いに十分な空地を確保するよう努める。 記載欄
(2) 高さ・規模	
<input type="checkbox"/>	言問通りから見える建築物は沿道建築物群のスカイラインと調和を図り、著しく突出した高さの建築物は避ける。 記載欄
<input type="checkbox"/>	言問通りから見える建築物の外壁は、次の方法などにより圧迫感の軽減を図る。 ・建築物の外壁の素材・色彩等を周辺に配慮する。 ・色彩、素材やセットバックにより分節化を行う。 ・周辺建物と隣棟間隔をとり長大な壁面とならないよう配慮する。 記載欄
(3) 形態・意匠・色彩	
<input type="checkbox"/>	建築物の形態・意匠は建物全体のバランスだけでなく周辺建物等との調和を図る。 記載欄
<input type="checkbox"/>	建築物等の色彩や素材は、次の事項に適合するとともに周辺との調和を図る。 ・外壁の素材は、耐久性があるものを積極的に使用し、光沢があるものは控える。 ・地域で親しまれている色彩（別表参照）の活用に努める。 ・外観の基調色は、別に定める基準に適合するものとする。 記載欄

<input type="checkbox"/> 坂道沿いでは、建築物の低層部が坂道の勾配になじむよう工夫した形態・意匠とする。 <b>記載欄</b>
(4) 公開空地・外構・緑化等
<input type="checkbox"/> 外構計画は隣接する敷地や道路など、周辺のまち並みとの調和を図った色調や素材とする。 <b>記載欄</b>
<input type="checkbox"/> 通り側に積極的な緑化を図り、佇めるスペースの確保に努める。 <b>記載欄</b>
<input type="checkbox"/> 敷地外周部は緑化を図り、潤いのある空間を創出する。 <b>記載欄</b>
<input type="checkbox"/> 緑化に当たっては、周辺の樹種と同一性のある樹種の選定を図る。 <b>記載欄</b>
<input type="checkbox"/> 緑地や植栽等に照明を設置するなど、夜間でも適度な明るさを確保するよう努める。 <b>記載欄</b>
(5) 設備
<input type="checkbox"/> 屋根・屋上に設備がある場合は建築物と一体的に計画するなど、周囲からの見え方に配慮し、次の事項に適合させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・通りから直接見えない位置に配置する。</li> <li>・ルーバーや緑化による修景などを行う。</li> </ul> <b>記載欄</b>
<input type="checkbox"/> 建築物に付帯する構造物や設備等は、エリア内道路から見えない位置に配置する。やむを得ない場合は建築物と一体的な意匠とするか、ルーバーや緑化などにより修景するなど、周囲から目立たない工夫を施すなど建築物全体との調和を図る。 <b>記載欄</b>

上記以外で特に景観に配慮した事項